

令和6年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	13	学校名	静岡県立浜松特別支援学校	校長名	園田 一哉
------	----	-----	--------------	-----	-------

【評価】

<p>A：十分目標を達成することができた。</p> <p>B：おおむね目標を達成することができた。</p> <p>C：あまり目標を達成することができなかった。</p> <p>D：ほとんど目標を達成することができなかった。</p>
--

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題	担当
ア <授 業> 個別最適な学びと協働的な学びを実現する学校					
児童生徒が夢中になれる学校生活の創造	年間計画の作成にあたって、時期毎、取り組むべきことを明確化・焦点化している。	学部や学年が時期毎に取り組むべきことを明確化・焦点化し、年間計画を作成し、取り組んだ。	A	最良のテーマを設定することで、学習内容が明確化・焦点化され、学校生活全体で児童生徒が夢中になって学びを深めることができた。今後も、主体的に考え、行動する姿を目指し、年間計画の作成や授業づくりを継続していく。	○学部 学年
協働的な学びの充実	集団で取り組む(友だちと取り組む)良さを生かした授業を実施している。	集団で取り組む良さを生かした授業を実施した。	A	児童生徒が協働的な学びの中で満足感や達成感をもつ授業を展開することができた。今後、グルーピングや教材の工夫、ICT機器の活用を促進し、集団で取り組む良さを生かした授業を展開していく。	○学部 学年
個に応じた指導の充実	願う姿を描き個別の教育支援計画の目標を設定し、これを基に個別の指導計画を立てている。	願う姿から、個別の支援計画の目標を設定し、これを基に個別の指導計画を立てた。	A	手引きや評価の仕方を個別の日の前に学部単位で周知した。管理職回覧での指導を受けて、児童生徒一人ひとりに向き合った立案、見取りをした。目標の質の向上を目指して願う姿や流れ図を活用し、好例を基に手引き改定をしていく。	教務 特支 自立
自立活動の充実	流れ図から指導すべき目標を導き出し、時間の指導・教育活動全体を通じた指導を使い、効果的に指導を行っている。	流れ図や学習会、実践例紹介等を目標設定、指導の参考にして実践できた。	A	自立活動や流れ図学習会、実践例の紹介を行い、自立活動の基礎を深め、目標設定や指導に生かすことができた。流れ図の有効活用については課題がある。今後は書式の見直しと学年、学級ごとに流れ図の考え方で話し合っ目標や指導内容	自立

				を検討する研修の充実を図る。	
生活単元学習、 作業学習の充実	最良のテーマを基に、成就したいことは何かを明確にした授業づくりをしている。	最良のテーマを基に、児童生徒が単元ごとに何を成就したいと思うか事前に話し合い明確にすることができた。	A	学部ごとに話し合いながら授業づくりを検討する様式を使用した。また、研修の日、学年会などを単元づくりの検討日として計画的に活用した。事前に単元について話し合うことで児童生徒の自然な気持ちの流れに即した夢中になることが明確な授業づくりを行うことができた。 今後も児童生徒が主体的に活動する授業づくりの研修に取組んでいきたい。	研修
国語・算数/数学 の充実	実態から学習指導要領の領域・段階を捉えて年間指導計画を立て、授業づくりをしている。	学習指導要領の領域・段階を捉えて年間指導計画を基に授業実践ができた。	A	児童生徒の実態把握をし、学習指導要領の領域・段階を捉えた授業実践をした。また授業づくりの参考に「太田ステージ評価」の研修を実施した。今後は、児童生徒の実態把握が的確にできるように、検査法等の研修の充実を図っていく。	教務 ○学習
ICT の活用の促進	タブレット端末やクラウドを活用し「個別最適な学び」「協働的な学び」を目指した授業づくりをしている。	複数人対応の授業では利用しているが個別対応形式の授業での利用が少ない。	B	ICT を利用しての授業実践に教員の利用状況の偏りが見られる。ICT 利用研修を受けられる環境を作って教員一人一人の実践ハードルを下げる。	情報
図工・美術等、 表現活動の充実	個性を生かした表現活動ができるよう、個々の実態に合わせた素材や補助具を用意している。	個々の実態に合わせた教材を用意し、個性を生かした表現活動ができた。	A	作品展において各学年2点以上の展示発表をしたり実態に合った楽器や教材を用意したりすることで、個性を生かした表現活動ができた。図工・美術や音楽の授業作りに専門的なアドバイスが得られる機会を作るようにしたい。	輝き
道徳指導の充実	道徳の指導の観点から抑えるべき内容を確認して、各教科や合わせた指導等を行っている。	道徳の指導の観点、内容を確認し、各教科、合わせた指導等の授業を行うことができた。	A	各部で道徳教育のミニ学習会を実施した。生活単元学習の実践紹介では、道徳教育の観点や内容が含まれた児童の様子が紹介され、合わせた指導における道徳教育の考え方が分かりやす	学習

様式第3号

				く、授業づくりの参考になった。今後も引き続き、ミニ学習会を計画していく。	
イ <安全> 命を守り、人権を尊重した安全で安心な学校					
命を守る意識と行動力の向上	児童生徒の命を守るために、指示が無くても取るべき行動を自分で判断することができる。	避難訓練では、放送の指示が無くても周りの児童生徒を速やかに避難場所へ誘導することができた。	A	年間5回の避難訓練を、計画通りに実施することができた。避難後の点呼では、不明者の集計を優先する形で行った。避難中に職員が互いに声を掛け合い、スムーズで安全な移動を習熟させていきたい。	防災
安全・快適な環境づくり	施設を効果的に活用するために、廃棄・片付け・清掃に自ら気付き取り組んでいる。	校内の不用品廃棄がほぼ完了し、校内の物品の片付け、清掃に取り組むことができた。	A	不用品を廃棄するとともに、他の場所で使用できないか考え、棚や物品を適切な場所に移動することで、施設を効果的に活用することにつながった。	総務
事故防止の強化	けがの予防、不慮の事故を無くすよう、児童生徒の実態に応じた配慮を行っている。	児童生徒の実態に応じて、事故防止に対する配慮ができた。	A	事故を防止するための研修や実践内容を共有したことで、大きな事故の防止につながった。ヒヤリハットがあったときには、引き続き対応方法について検討・改善・共有し事故を防止していきたい。	保体
人権を守る意識と行動力の向上	学校が児童・生徒の居場所(安心する場)となるよう、人権を意識した言動を心掛けている。	児童生徒への言葉遣いや名前の呼び方など意識して気を付けることができた。	A	人権アンケートや人権向上三則などを通して、意識の向上に努めた。名前の「さん」付けの徹底や否定的な言葉掛けをしないことの周知など引き続き呼び掛けを行っていきたい。	生徒
ウ <協働> 家庭、地域、関係機関と協働して支援する学校					
発信力の向上	学校をより理解してもらえるよう、伝え方、発信の仕方を工夫している。	学校をより理解してもらえるよう様々な場面で伝え方、発信の仕方を工夫した。	A	保護者へは、参観会や行事などの学習の目的や内容、学習の様子などを学年だよりや学部だよりで事前事後に伝え、教育活動への理解を促す工夫をした。外部に向けては、インスタグラムやホームページ、新聞掲載などで本校の取組や児童生徒の学習について発信し、本校への理解を促した。	企画会 ○学部

様式第3号

江之島地区三校 (浜特・江南中・江之高)の協働体制の強化	三校による取り組みとして何ができるかを考え取り組み始めた。	三校生徒会による交流会を実施し、生徒会活動の情報交換や新分校の校名について意見を交わした。	B	三校連携協働委員会の体制等について、担当者間で検討し、三校生徒会の交流が実現した。生徒会のつながりが持続するよう三校の調整を行い、三校が協働で取り組む活動を引き続き検討していく。	管理職 ○CS 学部
学校応援隊の活用の推進	地域を知る、地域と触れ合う、地域の役に立つ等の活動に取り組んでいる。	小学部は探検学習、中学部は地域で働く人との触れ合い学習、高等部は地域清掃活動等、段階に応じた学習に取り組んだ。	A	学校周辺の地域資源を学習に活用しようとする意識が高まり、地域学習が増えた。学校周辺の地域資源には限りがあるため、地域の範囲を広げ、本校の理解啓発を進めることを通して、応援隊をさらに増やしていく。	○CS 学部 学年
進路指導の充実	児童生徒の「夢」を育み、本人・保護者の「願い」を大切にされた進路指導をしている。	進路便りや外部での進路関連のイベント案内の情報提供や個別の相談等を行った。	A	様々な方法で学校から情報提供を行い、概ねよい評価を得た。小学部段階では、保護者・教員、双方に将来のイメージがなかなか持てないという声も聞かれたため、将来の姿を具体的にイメージできるような取り組みも検討していきたい。	進路
センター的機能の充実	高等学校のニーズに対応するため、教育相談、研修支援等への依頼に応じている。	学校ホームページに「教育相談」のページを作成した。教育相談だよりを2回発行した。依頼件数0件	B	ホームページやおたよりで啓発を行ったが、連携が不十分であった。今後は連携高等学校を直接訪問するなどして高校のコーディネーターとの繋がりを作って相談しやすい体制を築き、センター的機能としてどのようなことが必要とされているのかを把握し支援に繋げたい。	特支
エ <チーム> 全教職員が主体的に学校づくりに参画する学校					
コミュニケーション力の向上	働きやすいチームとなるよう、相手の立場に立った伝え方、受け止め方を心掛けている。	相手の立場に立った伝え方、受け止め方を心掛けた。しかし、心のゆとりがないときには、相手の立場に立って考えることができない状況もあった。	A	それぞれの教員がお互いの仕事の状況の理解に努め、協力し合う意識をもつことができた。自分と相手の感じ方やもっている背景は違うことを常に意識しながら、どんなときもお互いを尊重した対応を心掛け、働きやすいチーム作りを続ける。	企画会

様式第3号

浜松特支教職員としての自覚の向上	老朽化・狭隘化・津波の三大リスクに対し、すべきこと・できることを考え、実践している。	総務課、防災課、学習指導課を中心に学校全体で三大リスクに対し、すべきこと・できることを実践した。	A	教材教具やファイル等の定位置の明確化、不用品の廃棄、避難訓練実施・反省・改善など、常に三大リスクの低減に向け取り組んだ。今後も一人一人が危機管理能力を高め、安全安心に生活できる環境づくりを行う。	企画会
働き方改革の推進	特別な場合は除き、週に複数回、空き時間を確保している。	週に複数回、空き時間を確保するよう努めた。	B	年度初めや児童生徒の状況によっては、在校時に空き時間をつくれなことも多かったが、学習計画段階で教員配置を明確にしたり、グルーピングを工夫したりすることで空き時間を確保するように努めた。個人の仕事を進める時間を計画的に確保できるようさらに工夫していく。	○学部 学年
	時間外勤務45H/月以上が連続する職員はいない。	45H/月が連続する職員はいなかった。	A	週1回の定時退庁日に加え、今年度から完全退庁時刻を設定し、時間を意識することができた。業務の重なりや偏りにより時間外勤務が多くなる職員が複数いたため、今後さらに業務の調整、見直しを行う。	企画会
指導効果を高める予算の執行	必要物品の計画的な購入、不具合箇所への迅速な対応、不要物品の積極的な廃棄等を行っている。	物品購入、廃棄処理等については計画どおり執行をした。点検結果及び要望に応じて不具合箇所への対応をした。	B	計画になかったものについても柔軟に対応した。また分校の学級増対応にも遅延なく執行をした。不用品等の処分については今後も継続していく。修繕費の予算不足は随時要求をしていく。	事務
倫理観の向上	不祥事0件	処分対象となる不祥事は0件だった。発生した交通事故は被害又は双方不注意で過失割合の小さい事故だった。	A	学年によるグループワークを年4回設定し、不祥事を自分事として考える機会とした。職員会議でも継続して不祥事根絶の呼び掛けを行った。電子掲示板や事務室前掲示板を活用し、毎月交通安全標語を掲出して注意を呼び掛けた。事故発生の際には状況を知らせて注意喚起を行った。今後もこれらの取組を継続する。	管理職

※CS担当；コミュニティースクール担当